

(2) - 4) ⑥和紙作りを軸にした里山保全と文化伝承(高知県高岡郡梶原町 かみこや)

和紙作りを通じて、ミツマタなど原材料の保全・栽培を軸とする里地里山保全活動を展開。和紙による工芸品の製作をはじめエコツーリズムや人材育成など地域活性化に役立っている。

a. 取組の背景と経緯

高知県高岡郡梶原町はかつて和紙の原料としてミツマタやコウゾなどを地域の里山で栽培しており、町の収入の大部分をこの和紙の原料販売で得ていた。四万十川の源流に当たることから水がきれいであることから紙漉きに適しており、住民の高齢者たちもかつて和紙の原料栽培に携わっていたことからその知識や技術に精通しているという地域特性を持っている。

オランダ出身のアウテンボーガルト・ロギール氏は日本文化への興味から和紙に関心を持ち、和紙創作活動の場としてこの地域を選び移住。紙漉き体験民宿「かみこや」を運営しながら品質の良い和紙作りを可能にする豊かな里山の保全を進めるとともに、その活用について和紙を軸にしながら幅広く展開している。



写真：紙漉き体験の様子(かみこやホームページより)

b. 活用方法

■オリジナル和紙の生産

地元の原料と水を用いて伝統の土佐和紙である本和紙と、オランダの伝統のコットンペーパー、そしてオリジナルの手漉き紙を制作。「梶原和紙」と名付け、和紙自体の販売の他工芸品や体験活動の素材として利用している。

■紙漉き体験民宿の運営

紙漉き体験と宿泊ができる施設として、「梶原和紙&紙漉き体験民宿 かみこや」を運営。原料の楮や三桮の観察からはじまり、煮て柔らかくした楮の繊維を叩解したり、周囲を散策して草花を採集し紙に漉きこみ、参加者オリジナルの紙を作ることができる体験などを提供している。また、地元の自家栽培の有機野菜や山菜・川魚を主とした食材による料理の提供も行っている。

■工芸品利用

和紙を用いたオーダーメイドによるランプシェード等の工芸品を製作し販売。様々なタイプのものが作られており、芸術的評価も高い。

■地域づくりのテーマ活用ーミツマタの道プロジェクトー

ミツマタをテーマに据えて、山の暮らしや文化、歴史に深く関わりのある里山の昔の道の自然を通して、里山道の再生と地域の活性化を目的とした「旧道再生復活による研究学習体験型人材育成事業」に取り組んでいる。有用植物調査や地域の歴史文化調査を行うと共に、下草刈りなどの里山整備や再発見された地域資源の活用事業、外部との交流事業、人材育成等に取り組んでいる。



写真：かみこやの和紙製品例（かみこやホームページより）

c. 保全活動と野生生物への効果

紙作りを核として地域活性化に取り組む「上舞やなぎばた会議」が地域で結成された。里山でミツマタやコウゾなど和紙原料を保全・栽培するとともに、野菜や川魚、山菜等の生産・管理・活用を行うなど山間地域の基礎力を高める取組を行っている。

また和紙をテーマに据えた取組の結果、地域の里地里山の有用植物や動物に対する知識と理解が深まり、かつての里山の生活道路の再生や学習と保全の両面から取り組むエコツーリズムが開催されるようになっていく。